

(5) 透析導入後1年生存率地域差に影響を及ぼす施設因子について (図表5)

論文の概要

慢性透析患者導入後1年生存率には地域差があり、その要因について施設に関する項目を検討した探索的研究である。

タイトル：Institutional factors influencing regional differences in the 1-year survival of dialysis patients

著者：Ogata S, Nishi S, Wakai K, Hanafusa N, Iseki K, Tsubakihara Y, Masakane I, Japanese Society for Dialysis Therapy, Renal Data Registry Committee

掲載：Hemodialysis International 2015；19：S5-S10

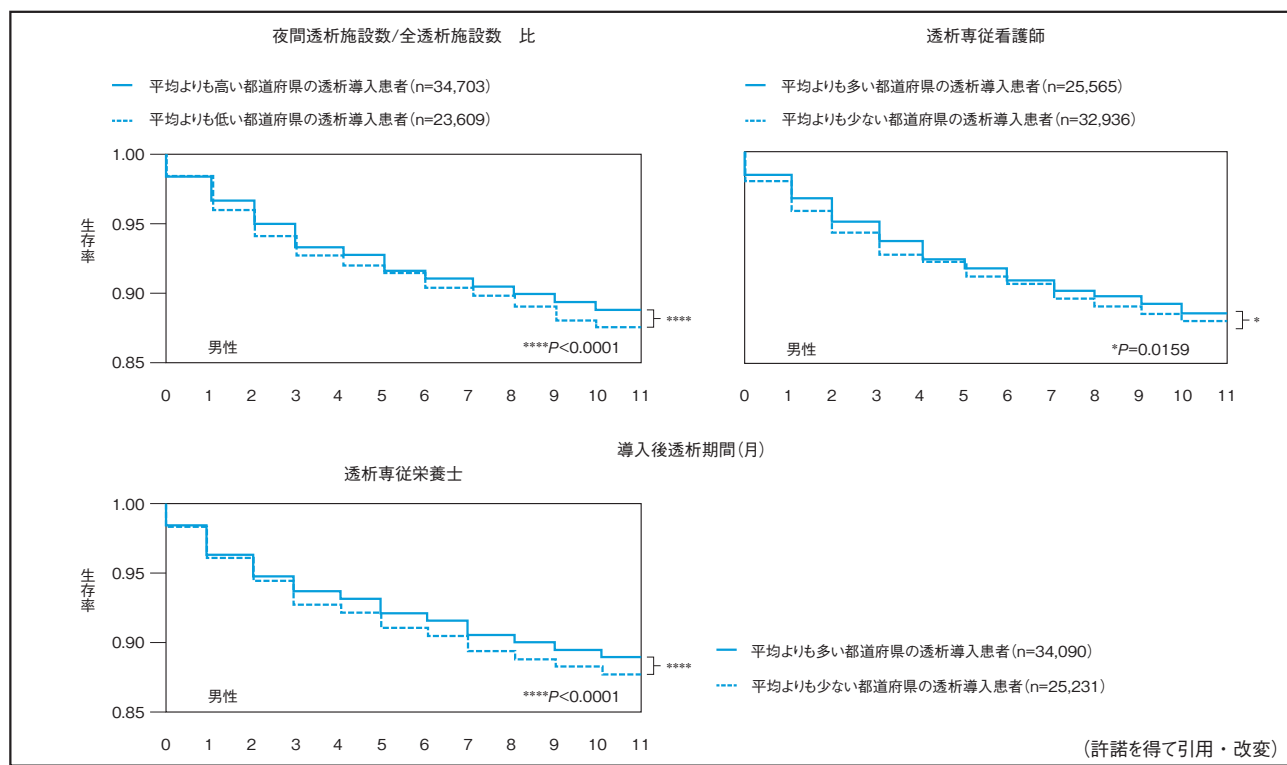
対象：日本全国3,958透析施設, 2004～2006年中透析導入患者 102,011人

目的変数：男女別都道府県別透析導入患者1年生存率

説明変数：日本透析医学会統計調査データベースJRDR-09105・日本透析医学会施設会員名簿・財務省統計局調査などから抽出した20項目の都道府県別データ

手法：単回帰分析、Kaplan-Meier法、log-rank testおよびCox比例ハザードモデル

結果：調査した20項目のうち5項目が単回帰分析で相関が認められた。平均よりも上位都道府県と下位都道府県比較したところ、そのうち夜間透析施設数/全透析施設数比、透析専従看護師数、透析専従栄養士数がKaplan-Meier法、log-rank testで有意であった。



解説

従来、透析導入患者の生存率への影響についてはさまざまな透析医療技術項目について検討がなされてきた。一方でその地域差の要因については人種差が大きく関与しているという報告は多い。遺伝的にほぼ単一民族と考えられる日本における地域差とその要因に関する研究は環境因子を説明できる可能性がある。この論文では毎年実施されている統計調査の施設別データに加え、日本政府機関による全国調査の中から医療施設に関わる項目に焦点を当て、それらと透析導入患者生存率との関連を調査している。その中から透析専従看護師数と透析専従栄養士数が関連が認められた。特に透析専従栄養士の数は全国的に少なく、その数が多い都道府県で透析患者の予後が良いことは大変興味深い。

探索的な研究であり、さらに都道府県単位のEcological Study (地域相関研究) の形式をとっているため生態学的誤謬を含んでいる可能性がある、また地域差については様々な要因が複雑に絡んでいると考えられるため、今後今回の結果を基にさらに個別の研究が進んでいくことを期待する。